



鹿児島県 農地バンクだより

～活かそう農地、託そう未来～

第15号

令和5年3月30日発行

公益財団法人鹿児島県地域振興公社

(鹿児島県農地バンク)

TEL 099-223-0223(農地部直通)



3年連続2,000ha超の農地集積を達成

～令和4年度転貸実績まとまる～



R4年度の農地中間管理事業による転貸面積は2,092haとなり、3年連続で2,000haを超えました。累計転貸面積は16,204haとなり、県全体の耕地面積(112,900ha)の1割以上が本事業で貸借されていることとなります。

事業活用者様のご理解・ご協力及び各市町村等の農政担当課・農業委員会をはじめとした関係機関・団体の皆様が本事業を推進してくださった賜物と深く感謝申し上げます。引き続き、事業に対する皆様方のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和4年度担い手訪問結果取りまとめ

～貴重なご意見・ご要望ありがとうございました～

R4年度に実施した担い手訪問の結果を取りまとめましたので、概要を紹介します。担い手の皆様からの感想・要望などは、今後の事業推進の参考にさせていただきます。

- 1 調査期間 R4年7月～12月
- 2 訪問件数 37件
- 3 聞き取り内容(抜粋)

(1) 農地バンクを活用してみたの感想等

- 賃料の支払いが楽になった。
- 政策支援(機構集積協力金・経営体育成支援事業等)を受けることができた。
- 高齢化の進行に伴い、農地バンクの重要性は年々増していく。
- 手続きをもっと簡素化してほしい。所有者へ事業の周知が足りない。

(2) やみ小作の解消についての意見等

- トラブル防止や政策支援等が受けられるので、全て契約に基づかないと借り受けない。
- やみ小作や相続未登記に対してペナルティが必要である。

(3) 農地集約に対する考えと実例

- 基盤整備を契機に、農地の集約化が進んだ。
- 大隅地域では、町内の一部法人どうして相談し、農地の集約化を実施している。
- 借りた農地に看板を立てて、認知度アップに努めている。

地元農家と集積希望箇所を確認 (霧島市霧島地区農地活用検討会)

3月15日に霧島公民館において農地活用検討会【～人・農地プランから地域計画へ～】が開催され、地元農家、県始良・伊佐地域振興局、市（農政・耕地・農委会・各支所）、農地バンクから60人が出席しました。

会では、市から地域計画の説明がなされた後、各農家が集積を希望する箇所に意向シール（青：規模拡大、黒：現状維持、赤：規模縮小）を貼り付ける形で進行されました。また、鳥獣害被害の多い地点にもイラストシールを貼り、被害の程度と対策の必要性を皆で共有しました。

市ではこの地図を地域計画に反映すべく、今後継続して地元との検討を進めることにしています。



農地中間管理事業説明会にて事業PR (湧水町中津川・竹田地区)

3月20日に各地区公民館等において農地中間管理事業説明会が開催され、地元農家、町農委会、農地バンクが出席しました。

会の冒頭で、農地バンクからDVDとパンフレットを使って事業の仕組みを説明しました。続いて町から、地域集積協力金の概要説明と、当該地区での事業の取り組みについて提案がなされました。

湧水町では現在、314ha（農振地域の約2割）が農地バンクを活用し貸借されています。出席者からは、組織設立や契約に関する質問が出され、町では戸別訪問による他の農家の意見も集約し、農地バンク活用の可能性を模索することにしています。



農地集積に向けて集落役員と検討 (与論町那間集落)

3月22日に那間公民館において農地中間管理事業推進検討会が開催され、集落役員（担い手等）、町（農政・耕地・農委会）、農地バンクから15人が出席しました。

協議ではまず、農地バンクが事業の仕組みやメリットを説明した後、町から地域集積協力金の交付要件や他地区の取組事例などが紹介されました。

出席した役員からは、島内の農地貸借の現状報告のほか、島外の所有者へ効果的に農地バンクをPRする方法などについて意見が出されました。

地区では来年度以降、地域計画策定に向けた協議の場において更に検討を進めていく予定です。



契約変更事務処理受付状況 ～円滑な事務処理にご協力を～

受付区分	R3年度	R4年度	前年度比
継承所有者死亡	481	591	123%
耕作者死亡・経営継承	91	73	80%
合意解約	1,438	1,272	88%
賃料金額変更	413	324	78%
軽微な変更	344	292	85%

※ R3年度は処理件数。R4年度は、R5.2.28時点で農地バンクが受理した件数。

必要な様式や添付書類等については、事務処理マニュアル（R5年2月版）中の「継承及び合意解約等事務早見表」を併せて参照いただき、円滑な事務処理にご協力くださるようお願いいたします。

農地中間管理事業評価委員会を開催 ～評価結果を事業運営に活かしてまいります～

2月28日に当公社会議室において、農地中間管理事業評価委員会を開催しました。審議ではR4年度の事業実施状況に関して、評価委員から「やみ小作を正規の手続きに誘導することが課題であるが、関係機関と連携し国への働きかけも必要」、「出し手の高齢化が進み、手続きの煩雑さや長期契約で事業に抵抗を感じる人もいる。受け手とのギャップを埋める取り組みの検討を」などといった意見が出されました。

委員の皆様からいただいた提言等を、今後の事業運営に活かしてまいります。

なお、評価結果（事業評価票）につきましては、後日、農地バンクHPに公表する予定です。

